

2

日本压力容器研究会議 (JPVRC)

2.1 設立経緯とこれまでの活動

日本压力容器研究会議 (JPVRC) は、1977 (昭和52) 年に当協会の木原博会長 (当時) が中心となって設立されたもので、米国の Welding Research Council (WRC) 傘下の Pressure Vessel Research Council (PVRC) と協力して、压力容器に関する共同研究を行うことを目的とした機関である。

压力容器関連技術は本来いくつもの分野の集合技術であることから、当初から複数の団体がサポートする体勢がとられた。すなわち、

材料分野 日本鉄鋼協会 (ISIJ)

設計分野 日本高圧力技術協会 (HPI) 及び高温構造安全技術研究組合 (ISES)

施工分野 日本溶接協会 (JWES)

である。その後 ISES は解散したため、残りの3団体がそれぞれ材料部会、設計部会及び施工部会の事務局となって現在に至っている。

JPVRC の会長は2年の任期で3部会の部会長の持ち回りとし、他の部会長は副会長に就任する。JPVRC 全体の事務局は当初から鉄鋼協会に設置されていたが、1997 (平成9) 年に HPI に移された。

米国 PVRC は米国機械学会 (ASME) や米国石

油学会 (API) から委託を受けて、压力容器の設計、製作、検査、維持管理などに関する規格、基準類を作成したり、改訂するために必要な情報の収集、必要な研究を実施し、これらの原案を検討する作業を行っている。しかし、日本の場合は压力容器のすべてが何かの法律で規制されているため、米国と同様の活動をするのは困難であった。

そこで、JPVRC は設立当初に関連業界のアンケートをとり、業界ニーズに合わせた共同研究テーマを設定して活動を開始した。その後、これら独自の共同研究を進めるとともに、PVRC の要請に応じて日本国内のデータのとりまとめや提供を行うなど、国際的な協力も行ってきた。

JPVRC と PVRC は、その関係が密接であった時期も疎遠であった時期もあるが、近年では年3回開催される PVRC の会合に日本からも必ず誰かが参加しており、密接な協力関係ができあがっている。また、日本国内では規制緩和の方針から、压力容器関連4法の民間規格移行の動きがあり、PVRC と協力しての JPVRC の活動分野は今後ますます広がるであろう。

2.2 20周年記念シンポジウム

JPVRCは1977(昭和52)年に設立されており、1997(昭和52)年に20周年を迎えた。それを記念して、1997(平成9)年11月12日に、JPVRC設立20周年記念「第一回压力容器技術国際シンポジウム」(ISPVT'97)が経団連会館国際会議場で開催された(写真2.1参照)。

このシンポジウムは、JPVRCが提案し、ASMEと共同で進めている压力容器の国際規格・標準作り(IPEC構想)に理解を得るため、「International Harmonization of Code and Standard for Pressure Equipment」と題して、米国のASME、PVRCの主要メンバー、アジア、オセアニア諸国及びEPERC(EC压力容器研究会議)などの代表を招いて、压力容器に関連する各国の研究、規格化の最新情報を交換した。招待者も含め9カ国から150名を超える参加者が集まり、活発な意見交換が行われた。

会議後、ダイヤモンドホールに会場を移し、約200名参加の下、20周年記念祝賀会が催された。その席上、JPVRCの活動に長年功勞のあった荒木透(金属材料研究所顧問)、金沢武(東京大学名誉教授)及び米国PVRC Executive DirectorのM. Prager氏の3氏が表彰された(写真2.2参照)。



写真2.1 JPVRC設立20周年記念
「第一回压力容器技術国際シンポジウム」



写真2.2 祝賀会の状況

2.3 施工部会の活動

JPVRC施工部会は部会長の町田進(千葉大学)の下に施工部会連絡会議を設け、溶接協会の溶接棒部会、鉄鋼部会、化学機械研究委員会及び規格

委員会がこれをサポートする形で運営されている。さらに、前節の20周年記念シンポジウムの事務局を担当していた。